

コスモス 10月号

第72巻 第10号

◆宮柁ニカレンダー(67) 十月の歌

雨負ひて暗道^{くらみち}帰る宮肇君絵を提げ退職の金を握りて
歌集『多く夜の歌』

昭和35年10月9日、二十年勤務した富士製鉄を依願退職した。冷たく強めの雨に打たれつつの帰路。同僚からの饞別の滝口修造の絵(芸術)と退職金(実生活)をしっかりと持って暗い道を進む。三句の表現から歌人宮柁二が昼の分身の勤め人宮肇を労うように詠んでいる。とはいえ、歌人として生きていくことに対しての不安も少なからずあったのだらう。「雨」「負ふ」「暗道」「握る」など不安感を暗示している。安保闘争など社会に大きな動きのある時代であった。
(立花純子)